

I 種苗生産技術開発研究事業

2 アカウニ種苗生産試験

南 坂 恵 洋

目 的

アカウニの種苗生産技術を開発する。

材 料 お よ び 方 法

採卵は1989年11月28日に行った。産卵誘発は前年までKC1溶液注入法を用いたが、この方法では未熟卵も排卵するので、今年度は0.5~1.0Nの γ -アミノ酪酸(GABA)溶液をウニの周口部から注射器で1~3 ml体内へ注入する方法を用いた¹⁾。孵化幼生を0.5 m^3 パンライト水槽2面と1.2 m^3 FRP水槽に収容した。幼生飼育は止水、微通気(ガラス管1本)で水温を18~20 $^{\circ}\text{C}$ に保った。換水は2~4日に1回、1/3~1/2量程度行い、底面掃除は飼育期間中に2回行った。餌料には高温性のキートセラスを用い、幼生の成長に応じて、1日当たり5,000~50,000cells/ml給餌した。採苗槽は1.2 m^3 FRP水槽1面と7 m^3 コンクリート水槽1面を用いた。採苗槽には予め付着緑藻(ウルベラ)を着生させておいた塩ビ波板を投入した。

結 果

産卵誘発によって680万粒採卵し、翌日、孵化幼生を400万個体取り上げ、0.5 m^3 パンライト水槽2面にそれぞれ40万個体(0.8個体/ml)と1.2 m^3 FRP水槽に100万個体(8.8個体/ml)収容した。幼生飼育では換水中に幼生が換水ネットに付着し、大量斃死した。産卵から17日目に採苗し、この時の生残率は39%(77万個体)であった。生産した稚ウニは殻径4 mm以上が約1.6万個体、殻径3 mm以下が約1.7万個体の合計約3.3万個体であった。

文 献

- 1) 水産技術経営研究会, 1986: ウニの産卵誘起物質の発見, 水産技術と経営 7月号, 31-32.

調 査 結 果 登 載 印 刷 物 等

南西海区ブロック介類情報 第29号.